

住教育

宮大工による体験講座

「伝統建築文化に触れよう」

実績集



福井県土木部建築住宅課

目次

| | | |
|---|------------|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 体験講座のプログラム | 2 |
| 3 | 講師紹介 | 4 |
| 4 | 実施学校 | 6 |
| 5 | 使用テキスト | 9 |
| 6 | 感想 | 10 |
| 7 | まとめ | 12 |
| | (参考) 新聞記事等 | 13 |

表紙写真

法隆寺および薬師寺の宮大工棟梁・西岡常一氏の書

「塔組は木のくせ組」

西岡常一氏の著書「法隆寺を支えた木」の中で、宮大工口伝としてこう記されている。

塔組みは、木組み
木組みは、木の癖組み
木の癖組みは、人組み
人組みは、人の心組み

建物は良い木ばかりでは建たない。北側で育った“アテ”という、どうしようもない木がある。しかし、日当たりの悪い場所に使うと、何百年も我慢する良い木になる。

棟梁は木の癖を見抜いて、それを適材適所に使う。建築は多くの人々が寄らないとできない仕事。そのためにも「木を組むには人の心を組め」というのが、まず棟梁の役割。職人が50人いたら、50人が棟梁と同じ気持ちにならないと建物はできない。

西岡 常一（にしおか つねかず）

1908年～1995年、奈良県斑鳩町法隆寺西里出身。「最後の宮大工」と呼ばれた宮大工棟梁。法隆寺の解体修理、法輪寺三重塔や薬師寺金堂、薬師寺西塔などを再建する。また、氏の功績の一つとして、古代の大工道具「槍鉋（ヤリガンナ）」の復元がある。

1 はじめに

福井県では、それぞれの地域で暮らす人たちが住んでいる地域の良さに気付き、誇りと愛着を持ち、次の世代に住環境（住まい、まち並み、住まい方）をより良い形で継承してもらうため、県内17市町において様々な住教育活動に取り組んできました。この取り組みの一環として、小学校高学年を対象とした宮大工による体験講座「伝統建築文化に触れよう※」を平成24年度から3か年に渡り開催してきました。

●体験講座開催の目的

近年は木造建築現場において、木材の良さや大工技術を子どもたちが見る機会が少なくなってきました。そこで、子どもたちに、本物の木材や大工道具、大工の技を見て、実際にカンナ削り等を体験することで、伝統建築文化に関心を持ってもらうことを目的として実施しました。

●主催等

〔主催〕 福井県

〔協力〕 一般社団法人 福井県建築組合連合会

小浜市、小浜市立遠敷小学校

大野市、大野市立有終西小学校

勝山市、勝山市立成器南小学校

鯖江市、鯖江市立豊小学校

あわら市、あわら市立金津小学校

坂井市、坂井市立東十郷小学校

永平寺町、永平寺町立志比南小学校

池田町、池田町立池田小学校

越前町、越前町立宮崎小学校

美浜町、美浜町立弥美小学校

高浜町、高浜町立高浜小学校

おおい町、おおい町立名田庄小学校

若狭町、若狭町立三宅小学校

※ 平成24年度は「宮大工による本物体験講座」という講座名で開催

2 体験講座のプログラム

各学校の意向を組み入れてプログラムを構成しているため、学校によっては若干異なる内容となっておりますが、体験講座の主なプログラム構成は次のとおりです。

| | プログラムの様子 | プログラム内容 | 準備物等 |
|---|---|--|--|
| 1 |  | <p>和釘について</p> <p>小学5年生の国語の教科書に掲載されている「和釘」に実際に触れてもらう。</p> <p>(所要時間：約5分)</p> | 和釘 洋釘 |
| 2 |  | <p>伝統建築の技術について</p> <p>釘や金物を使わず、木に切り込みなどの加工を施してはめ合わせる技術「木組み」について説明する。</p> <p>(所要時間：約10分)</p> | 三重塔凶面 心柱模型 木組み模型 |
| 3 |  | <p>木組みの取り外し体験</p> <p>木組み模型を使い、子どもたちに木組みを取り外し・取り付けをしてもらう。</p> <p>(所要時間：約10分)</p> | 木組み模型 |
| 4 |  | <p>大工道具の説明</p> <p>木組みを加工する道具など、大工道具について説明する。</p> <p>(所要時間：約15分)</p> | ノコギリ カナヅチ ノミ カンナ チョウナ 等 |
| 5 |  | <p>墨付け体験</p> <p>大工道具の一つ「墨壺」を使って、代表者に線を引いてもらう。</p> <p>(所要時間：約5分)</p> | 墨壺 木材 |

| | | | |
|---|---|--|---------------------------------|
| 6 |  | <p>ヤリガンナ掛け体験 大工指導のもと、子どもたちにヤリガンナ掛けを体験してもらう。</p> <p>(所要時間：約10～20分)</p> | <p>ヤリガンナ 木材（板材） 作業台</p> |
| |  | <p>カンナ掛け体験 大工指導のもと、子どもたちにカンナ掛けを体験してもらう。</p> <p>(所要時間：約10～20分)</p> | <p>カンナ 木材（柱材） 作業台</p> |
| 7 |  | <p>大工による実演(マサカリ) 丸い木材から製材する過程を子どもたちに見学してもらう。最初に、マサカリ作業をする。</p> <p>(所要時間：約5分)</p> | <p>マサカリ 木材 作業台</p> |
| |  | <p>大工による実演(チョウナ) マサカリ作業後、チョウナ作業をする。</p> <p>(所要時間：約5分)</p> | <p>チョウナ 木材 作業台</p> |
| |  | <p>大工による実演(ヤリガンナ) チョウナ作業後、ヤリガンナ作業をする。それぞれの作業による木材の肌触りの違いを子どもたちに体験してもらう。</p> <p>(所要時間：約5分)</p> | <p>ヤリガンナ 木材 作業台</p> |
| 8 |  | <p>質疑応答 子どもたちからの質問に対して、講師が答える。</p> <p>(所要時間：約5分)</p> | |

3 講師紹介(敬称略)

宮大工



直井 光男 (なおい みつお)

直井建築 代表

福井県越前市在住。日本を代表する西岡常一棟梁のもとで薬師寺金堂、西塔（奈良県）の復元工事に携わる。福井県内でも、大塩八幡宮（国指定重要文化財・越前市）、大滝神社（国指定重要文化財・越前市）、舎人門（福井市）、御廊下橋（福井市）の修復・再建工事などを手掛ける。

平成24年 秋の叙勲 旭日単光章（文化財保護功労）

宮大工



田中 健一 (たなか けんいち)

田中工務店 代表

福井県永平寺町在住。宮大工の父のもとで建築大工見習いとして修業し、昭和33年に独立して田中工務店を設立した。永平寺不老閣（永平寺町）をはじめ、出雲大社拝殿（島根県）など福井県内外の社寺建築に携わる。

宮大工



山口 文温 (やまぐち ふみはる)

山口建築 代表

福井県小浜市在住。明通寺三重塔（国宝・小浜市）や神宮寺本堂（国指定重要文化財・小浜市）、妙楽寺本堂・厨子（国指定重要文化財・小浜市）、飯盛寺本堂・厨子（国指定重要文化財・小浜市）などの修復工事に携わる。

住文化専門家



国京 克巳 (くにきょう かつみ)

福井工業大学非常勤講師／若越建築文化研究所代表
国京克巳建築設計工房代表

福井県坂井市在住。東京工業大学大学院で建築学を学び、平成10年に若越建築文化研究所を開設した。朝倉氏遺跡武家屋敷（福井市）や御廊下橋（福井市）、舎人門（福井市）の復元工事や、瑞源寺（県指定文化財・福井市）の修復工事の設計・監理など、歴史的建物の工事に携わる。

大工



畑 宣雄



近藤 秋仁



西川 晃治



池田 高康



山神 義史



末本 隆一



大林 彰



松井 登



川口 明



江信 末雄



川口 健一



山本 亘



久保 勝二



宮腰 祐一



岩佐 幸次

4 実施学校

実施学校については、各市町と協議して選定した住教育モデル地区の小学校を優先し、実施日時や対象学年については、各学校と協議して決定しました。

| 平成24年度 | | |
|--|------|--|
|  | 対 象 | 鯖江市立豊小学校 5年生 67名 |
| | 実施日時 | 平成24年6月13日(水) 14時00分～15時40分 |
| | 講 師 | 宮大工 直井 光男 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 池田 高康、山神 義史 末本 隆一 |
|  | 対 象 | 坂井市立東十郷小学校 6年生 68名 |
| | 実施日時 | 平成24年6月22日(金) 10時20分～12時25分 |
| | 講 師 | 宮大工 直井 光男 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 西川 晃治、池田 高康 山神 義史 |
|  | 対 象 | 大野市立有終西小学校 5年生 35名 |
| | 実施日時 | 平成24年11月14日(水) 13時45分～15時45分 |
| | 講 師 | 宮大工 直井 光男 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 西川 晃治、池田 高康 |
|  | 対 象 | 勝山市立成器南小学校 5年生 78名 |
| | 実施日時 | 平成24年11月21日(水) 13時45分～15時35分 |
| | 講 師 | 宮大工 直井 光男 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 西川 晃治、池田 高康 大林 彰、松井 登 |

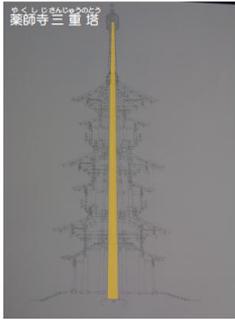
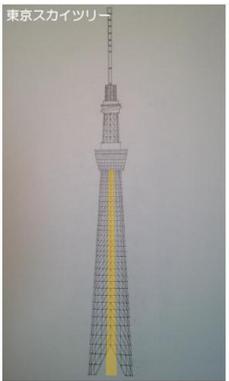
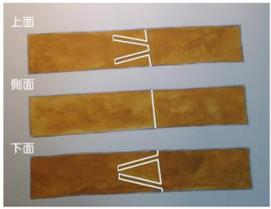
| 平成25年度 | | |
|---|------|--|
|  | 対 象 | 永平寺町立志比南小学校 5・6年生 44名 |
| | 実施日時 | 平成25年7月9日(火) 10時35分～12時15分 |
| | 講 師 | 宮大工 田中 健一 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 西川 晃治、川口 明 |
|  | 対 象 | 高浜町立高浜小学校 5年生 48名 |
| | 実施日時 | 平成25年10月10日(木) 13時30分～15時30分 |
| | 講 師 | 宮大工 田中 健一 住文化専門家 ー 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 西川 晃治、江信 末雄 |
|  | 対 象 | おおい町立名田庄小学校 5年生 24名 |
| | 実施日時 | 平成25年10月18日(金) 14時05分～15時45分 |
| | 講 師 | 宮大工 直井 光男 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄 西川 晃治 川口 健一 |
|  | 対 象 | 小浜市立遠敷小学校 5年生 34名 |
| | 実施日時 | 平成25年12月6日(金) 13時45分～15時35分 |
| | 講 師 | 宮大工 直井 光男 山口 文温 住文化専門家 国京 克巳 大工 畑 宣雄、近藤 秋仁 西川 晃治 |

平成26年度

| | | | |
|--|------|---------------------------------|-------|
|  | 対 象 | 池田町立池田小学校 5・6年生 33名 | |
| | 実施日時 | 平成26年10月8日(水) 13時55分～15時35分 | |
| | 講 師 | 宮大工 | 直井 光男 |
| 住文化専門家 | | 国京 克巳 | |
|  | 対 象 | 美浜町立弥美小学校 5・6年生 50名 | |
| | 実施日時 | 平成26年10月15日(水) 14時05分～15時45分 | |
| | 講 師 | 宮大工 | 直井 光男 |
| 住文化専門家 | | 国京 克巳 | |
|  | 対 象 | 越前町立宮崎小学校 5年生 43名 | |
| | 実施日時 | 平成26年10月30日(木) 14時00分～15時40分 | |
| | 講 師 | 宮大工 | 直井 光男 |
| 住文化専門家 | | 国京 克巳 | |
|  | 対 象 | あわら市立金津小学校 5年生 87名 | |
| | 実施日時 | 平成26年10月31日(金) 10時20分～12時20分 | |
| | 講 師 | 宮大工 | 直井 光男 |
| 住文化専門家 | | 国京 克巳 | |
|  | 対 象 | 若狭町立三宅小学校 6年生 19名 | |
| | 実施日時 | 平成26年11月19日(水) 10時30分～12時10分 | |
| | 講 師 | 宮大工 | 直井 光男 |
| 住文化専門家 | | 国京 克巳 | |
| 講 師 | 大工 | 畑 宣雄 近藤 秋仁 西川 晃治 | |

5 使用テキスト

体験講座に参加した子どもたちに少しでも興味を持ってもらえるように、手書きのイラストにて作成しました。また、テキストと一緒に袋を渡し、カンナ掛けでできた削り華（カンナ屑）を持ち帰ることができるようにしました。

| <p>0. 表紙</p>  <p>「ゆきまよういく 住教育」 宮大工による体験講座 「伝統建築文化に触れよう」 平成 年 月 日 ●●小学校</p> | <p>1. 和釘の話</p> <p>1 千年の釘</p>  <p>白鷹さんの和釘</p> <p>千年も長持ちするひみつはなんだろう？</p> | <p>2. 伝統の建築技術と最新の建築技術の話</p> <p>2 薬師寺三重塔と東京スカイツリー どこが似ている？</p>   <p>東京スカイツリー</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|---|-----------|------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-----------|------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|
| <p>3. 木組みの話</p> <p>3 木組みのお話</p>  <p>上面 側面 下面</p> <p>他にもいろんな継ぎ方があるんだよ。 うまく、外したり 組んだりできるかな？</p> <p>どんな形かわかるかな？</p> | | <p>4. 大工作業の話</p> <p>4 大工道具のお話</p>  <p>昔の大工さんの様子だよ</p>  <p>何をしているんだろう？</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>5. 大工道具の話</p> <p>どうやって使う道具だろう？</p>  <p>鉋 (のこぎ)</p>  <p>楯箱 (すりがんぼ)</p>  <p>鑿 (のめ)</p>  <p>墨壺 (すまづつ)</p>  <p>鋸 (のこぎり)</p>  <p>玄針 (げんのす)</p> | | <p>6. 講師紹介</p> <p>講師の紹介</p> <p>【大工棟梁】 藤井 光男 (たけい みつお) 【大工棟梁】 国枝 実日 (くにきょう かつみ)</p> | <p>7. 注意事項</p> <p>講師の注意</p> <p>○大工道具は刃が鋭いので取り扱いには注意してください。</p> <table border="1"> <tr> <th>してはいけないこと</th> <th>その理由</th> </tr> <tr> <td>カンナの刃先を人に刺す</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> <tr> <td>カンナの刃先で物を刺す</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> <tr> <td>カンナの刃先で物を刺す</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> <tr> <td>カンナの刃先で物を刺す</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> </table> <p>○大工道具は刃が鋭いので取り扱いには注意してください。</p> <table border="1"> <tr> <th>してはいけないこと</th> <th>その理由</th> </tr> <tr> <td>カンナを落とす</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> <tr> <td>カンナを落とす</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> <tr> <td>カンナを落とす</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> <tr> <td>カンナを落とす</td> <td>・刃が鋭いからです</td> </tr> </table> | してはいけないこと | その理由 | カンナの刃先を人に刺す | ・刃が鋭いからです | カンナの刃先で物を刺す | ・刃が鋭いからです | カンナの刃先で物を刺す | ・刃が鋭いからです | カンナの刃先で物を刺す | ・刃が鋭いからです | してはいけないこと | その理由 | カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | カンナを落とす | ・刃が鋭いからです |
| してはいけないこと | その理由 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナの刃先を人に刺す | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナの刃先で物を刺す | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナの刃先で物を刺す | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナの刃先で物を刺す | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| してはいけないこと | その理由 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カンナを落とす | ・刃が鋭いからです | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

6 感想

●児童の感想

- ・僕らが何気なく暮らしている家は、大工さんの努力があってできているのが分かって、家に住めることに感謝して暮らそうと思う。
- ・家族やいろいろな人に今回体験したことを伝えようと思う。
- ・大工さんは、一つ一つていねいに気持ちを込めて作っていることが分かった。
- ・木の色を見たり匂いをかいだりして、木と触れ合えたのがうれしかった。
- ・木のぬくもりをたくさん感じた。
- ・大人になったら大工になりたいと思った。
- ・カンナで削れば削るほど木がつるつるになると初めて知った。
- ・墨壺でまっすぐの線を引くのが便利で考えられていると思った。
- ・今は機械があるけど昔はなく、全て手作業でしているというのがすごいと思った。
- ・大工さんたちの苦労や大変さを知れてよかった。
- ・いつも見ている神社の見える部分に釘が使われていないということを初めて知った。
- ・自分だけでカンナで削っても上手にできなかったけど、大工さんと一緒にしたら上手にできた。大工さんはたくさん修行しているんだなぁと思った。
- ・宮大工のことをたくさん調べて、もっと宮大工のことを知りたいと思った。
- ・木は思っていた以上に堅いと分かった。かんなで削ってぺらぺらになっても引っ張ったら堅かった。だから千年経っても丈夫なんだと思った。
- ・三重塔の技術がスカイツリーにも活かされているのを知って、昔の人はすごいと思った。
- ・お寺の造りを教えてもらったので、修学旅行で実際の建物を見てみたい。
- ・薬師寺の三重塔が10階建ての学校と同じぐらいの高さだと聞いてびっくりした。
- ・日本の伝統建築文化はとてもすごいと思った。これからはぼくも伝統建築の家に住みたいと思った。
- ・教科書に載っている建物を建てた宮大工さんが来て教えてくれたので、とてもうれしかった。

●保護者の感想

- ・伝統技術に触れることができ、とてもよかった。こういう機会がないと素晴らしさなど分かることができなかつたらう。
- ・我が家の材質が木であることを建築中に見ていたのに、我が子は分かっていなくてびっくりした。伝統構法との違いも含め、家で教えたい。
- ・宮大工さんの技や伝統を今後もずっと伝えてほしいと思った。
- ・修学旅行のお寺めぐりの後ということもあり、子どもたちは関心が持てたと思う。
- ・大工の心得を読んで、自分も人の心を組んで仕事をしていきたいと思った。

●教諭の感想

- ・「本物に触れる」ということは、説明より、本より、何事にも代えられないもので、心に残っていくものだと感じた。
- ・一級品のモノをあれだけ用意することは普通の授業では不可能であり、今回、多くのモノが用意され、子どもたちが十分に触り、体験できてよかった。
- ・カンナで削った木の表面のなめらかさに感動した。体験に勝るものはないと改めて感じた。
- ・国語の教材や家庭科の「住」に関わる部分、図工で使用する道具との関連性等、学習と関わらせながら体験できたことが良かった。
- ・住む人のことを考えて、技を磨き、木と対話する。「木の心や、人の心をわかることが大切だ」と話を聞いてよくわかった。
- ・学校の校舎もたくさんの人の手によって、そして自然からいただく材料によってできていることに感謝し、子どもたちに大切に使ってほしい。
- ・子どもたちはヤリガンナを体験するために長い列になって待っていたが、目を輝かせていてとてもうれしそうだった。
- ・国語の「千年の釘にいどむ」の学習意欲を湧かせるために大変意義のあるものだった。また伝統に触れる学習としてとてもよかった。モノを作る仕事を体験することで、キャリア教育にもつながったと思う。
- ・体験や実演を多く取り入れた講座となっており、子どもたちは非常に喜んでいて。帰宅後、家族に話をする子どももいて、保護者への拡がりもみられた。
- ・昔からの技術が現代にも残っていることを知る上でとてもよい講座だった。今回の講座で見た技術や道具を知ったうえで授業に臨むことができ、また、来年の修学旅行で薬師寺に行くため、そこでまた伝統建築文化のすごさを実感できると思った。
- ・最近の家は工場で作られてきたものを組み立てられるという印象が強い。そういった中で、生で職人の技に触れられることができた今回の体験講座は、子どもたちにとって大変興味深かったようで、意義あるものだった。
- ・プロの技に触れるということは、興味があまりなかったことでも子どもたちの興味関心を高めるもので、本物に触れるということはすごく意義深いことだと感じた。
- ・子どもたちだけでなく、大人である自分たちも楽しませてもらった。

7 まとめ

●まとめ

- ・小学5年の国語科の単元「千年の釘にいどむ」では、鍛冶職人・白鷹幸伯氏が古代の釘に負けない釘を作ろうとする姿が描かれている。鉄の質や形にこだわり何度も改良をし続ける白鷹氏の職人としての心意気や生き方が述べられており、児童に職人の思いや考え方を読み取ってもらうことが狙いとなっている。
- ・こうした機会をとらえ、県としては、単に児童が知識を習得するための補足の場とするのではなく、古民家などの地域の資産を次世代に残すために自分たちに何ができるかを考えてもらうきっかけをつくるため、今回の体験講座を企画した。このため、伝統建築文化や技術は社寺仏閣だけでなく地域に残る古民家などにも息づいているということを知ってもらい、身近に感じてもらえるプログラム構成とした。
- ・価値観を形成する上で重要とされている小学校高学年を対象として伝統建築文化や住文化に関心を持ってもらうことで、成人した時に歴史的まち並みや住まいの保全について主体的に行動できる人間になることが期待される。児童の感想には「自分の家を大切にしたい」や「伝統建築の家に住みたい」という声があり、本講座実施による一定の効果があったものと思われる。
- ・建築の専門家にとっても、宮大工や建築士という職業について児童に身近に感じてもらう、存在と職能を広めていくことの重要性を再認識してもらう機会となった。本講座を参考に、児童に木の特徴を学んで木に触れてもらうことで住まいを見つめなおしてもらう「木の授業」を、女性建築士らを中心とした関係団体が主体的に活動するに至ったことは、本講座の成果の一つと言える。

●課題と今後の展開

- ・本講座はモデル的にしか開催できなかった。また、今後も同じ内容で学校が独自に企画し開催することは、費用や準備の関係もありなかなか困難であると思われる。今回、モデル校で開催し蓄積できた教材や授業の進め方等のノウハウを学校や建築関係団体に提供することで、引き続き支援していきたい。
- ・今後、「快適な住まい方」「住まいの安心・安全」などの住環境に関する分野についても幅広く取り組めるよう、拡充していきたい。

児童が宮大工の仕事体験



直井光男さん(徳)の手を添えてもらい、他
共に挑戦する児童ら(鯖江市豊小で)

「本物」の技術にワクワク

鯖江・豊小で講座 鉋がけなど

宮大工の仕事に触れる「本物体験講座」が13日、鯖江市下野田町の豊小で開かれ、5年生35人が参加した。木工技術に関心をもち、初めての体験として「鉋がけ」などを実践。本年度は三校で開く。

奈良県の業師寺の再建工事など、県内外で多数の文化財の工事に携わってきた越前市余田町の宮大工棟梁、直井光男さん(78)ら6人の手ほどきで、子どもたちは鉋に触ったり鉋がけをしたりした。

宮大工の仕事に触れる「本物体験講座」が13日、鯖江市下野田町の豊小で開かれ、5年生35人が参加した。木工技術に関心をもち、初めての体験として「鉋がけ」などを実践。本年度は三校で開く。

奈良県の業師寺の再建工事など、県内外で多数の文化財の工事に携わってきた越前市余田町の宮大工棟梁、直井光男さん(78)ら6人の手ほどきで、子どもたちは鉋に触ったり鉋がけをしたりした。

薄く鉋を手に取ると「包帯みたいな感触で結構柔らかい」「なんだか昔の匂いがあるね」など感嘆していた。浅野佑月さん(10)は「あまり力を入れずに、すーっと引くとどうも削れて面白かった」と話した。

福井工大非常勤講師の国原克巳さん(50)は、大工道具の魅力を語り、子どもたちが目を丸くし、思わず木材を接合する

(林朋美)

平成24年6月14日付け
日刊県民福井



宮大工の技術に児童たち目輝く
鯖江豊小で講座
小学生に宮大工の職人技

を教える講座が13日、鯖江市下野田町の市立豊小で開かれ、5年生35人が参加し、鉋がけなどに挑戦した。どのように住宅が作られるのかを学ぶ機会が得られる。この日は越前市の大産神社など重要文化財の修復

直井さんにかんながけを教えてもらう児童(鯖江市立豊小で)

を手がけてきた宮大工の直井光男さん(78)ら計6人の宮大工が、体育館でかんながけなどを実演した。厚さ1ミリ以下に削る直井さんらのかんながけを見て「すごい」と歓声が響く場面も。子どもたちは最初は難しく取り組んでいたが、コツをつかむと目が輝きだし、途中からは楽しそうに表情が変わっていた。

かんながけに挑戦した藤沢由拓君(10)は「かんなを触ったのは初めて。最初は難しかったけど、2回目からはちゃんとできた。面白かった」と話した。直井さんは「この講座を通じて、一人でもいかに大工の仕事に憧れを抱いてくれたら」と語っていた。

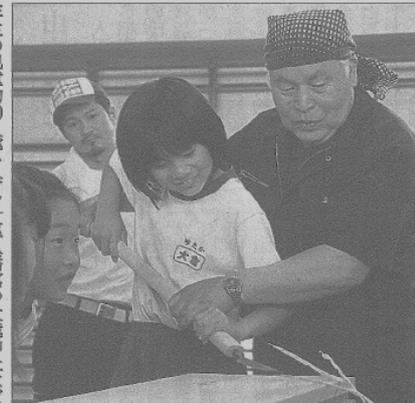
平成24年6月14日付け
読売新聞

巧みな宮大工技術
子どもたちに伝授

鯖江・豊小

奈良の業師寺金堂や西塔の復元工事に携わった直井光男さん(78)ら6人の宮大工が、子どもたちに技術を伝授する「本物体験講座」が13日、鯖江市下野田町の市立豊小で開かれた。体育館に集まった5年生の児童約70人が、珍しい鉋がけなどを実践し、鉋がけの楽しさを体験した。

直井さんは、県内では大



子どもたちにやりかたのかけ方を教える直井光男さん(鯖江市下野田町)

棟梁「一人でも大工の仕事に関心を持ってもらえれば」と話し、匠の技を児童に披露した。

体育館では、奈良の業師寺や法隆寺で使われた鉄製の釘、業師寺三層塔の建築図面や模型、チヨウチヤノコギリなどの大工道具が紹介された。児童らは直井さんら大工の手ほどきを受けながら木の板にカンナをかけ、ひらりとしたカンナがけ、2010年に文化庁長官表彰を受けた宮大工の技に触れていた。

(小池寛)

平成24年6月14日付け
朝日新聞



街路樹
○：県の住教育の一環として「宮大工による本物体験講座」が14日、大野市有終西小で開かれた。5年生35人が木工道具に

触れたり、実際に鉋がけを行って匠の技を体感した。

○：地域の特性に応じた住まいなど住文化に関心を持ってもらおうと、本年度から県内の小学校で開く。宮大工棟梁の直井光男さん(78)越前市を拠点とする大工職人や専門家が講師を務めた。

○：木組みの模型を使って継ぎ目を学んだ後、鉋がけに挑戦した。児童たちは全身を使った力作業に挑戦。清水風太君は「昔の大工さんは電気もコンピュターもなかったのに、たまたまの道具を作った工夫していたことがすごい。どの道具にも知恵が詰まっている」と感心していた。

平成24年11月15日付け
福井新聞

昔ながらの道具を使つての作業を体験する児童たち



宮大工の技術を見学・体験

7月9日 宮大工による本物体験講座

宮大工による体験講座が7月9日、志比南小学校にて行われ5・6年生が参加しました。

これは県建築住宅課が取り組んでいる事業の一環で、現代の児童に日本古来の伝統建築方法を体験することで身近に感じてもらうというものです。

初めに、地元の宮大工の田中工務店 田中健一さんより、大本山永平寺と宮大工との関係や伝統建築方法の話聞いた後、4班に分かれ、道具や木組みの仕組みを見たり、カンナ掛けの体験をしました。カンナ掛けは見た目以上に難しいようで、児童らは苦戦して削ったカンナくずを手にして「木のいい香りがする」と満足げにしていました。

広報永平寺

平成25年9月号



大工の手ほどきを受け、槌鉋に挑戦する児童たち 9日、永平寺町志比南小

宮大工の技すごい

木組み、鉋がけ 志比南小で講座

永平寺町

くぎを使わずに木材を人が参加し、同町の宮大工が結合する木組みや、鉋、工、田中健一さん(右)をがけなど伝統的な宮大工の技を学ぶ、体験する講座が9日、永平寺町志比南小で開かれた。児童たちは、人の手だけで仕上げられる昔ながらのものづくりに、目を輝かせて取り組んだ。

福井の伝統的な建築や町並みを継承しようと、町が開いている住教育講座の一つ。5、6年生44人が参加し、同町の宮大工が指導に当たった。住文化が専門の国京克巳・福井工大非常勤講師ら1人が指導に当たった。薄く長い削りかすができると、マフラーのように首に巻いたりして大はしゃぎ。児童たちは「一槌鉋は一人で引くと、固くて動かなくて大変。昔の人はずいぶん、複雑な計算をし、木組みが面白かった。大工さんって格好いい」と感心した様子だった。

平成25年7月10日付け

福井新聞

伝統的な建築文化を体験

寺誌 志比南小児童44人

福井県の住教育



国京克巳氏が大工道具を説明

福井県主催の体験講座を受け、みずから鉋(か)「伝統建築文化に触れよう」は9日、永平寺町市など匠の技の高さや奥深野々の志比南小学校体育館で行われ、5・6年生の児童44人が様々な使い分けの大工道具類の説明を聞いた。

講師は地元永平寺の宮大工である田中健一氏と住文化専門家の国京克巳氏が務め、現役の大工さんら4人も実演した。田中氏は千年も長持ちする和釘「わくぎ」の優秀性を紹介し、国京氏も鉋(か)や鉋鉋(やりがんな)など、めずらしい伝統的な道具の特長点を紹介。児童らは興味津々説明に聴き入った。

平成25年7月10日付け

建設工業新聞

宮大工技術にくぎ付け

伝統建築文化を子どもたちに伝えようと、永平寺町市野々の志比南小学校で9日、宮大工体験講座が開かれた。

同町の大本山永平寺不老閣や鳥根県の出雲神社拝殿の建築などに携わった、県内を代表する宮大工の田中健一さん(右)ら6人が講師となり、同校五、六年生四十四人が参加。

児童が体験講座

道元禪師の時代から代々が宮大工で、三十二代目の田中さんから和釘の話や木組みの話聞いた後、宮大工の道具を体験。鉋鉋に挑戦した五年生の高橋遼君(右)は「めり込んだり滑ったりして力加減が難しい」と言いながらも楽しそうだった。

福井工大非常勤講師の国京克巳さんが「組手」という木材のつなぎ方を合った建築や町並みを次



解説。児童たちは、鉋と世代に継承するため県が取り組む「住教育」の一環。昨年は四小中学校で実施され、今年是小浜市やおおい町、高浜町で行われる。(中田誠司)

平成25年7月10日付け

日刊県民福井

伝統建築 強度に「秘密」

子どもたちに日本の伝統建築の奥深さを知って貰おうと、県は十日、高浜町宮崎の高浜小学校に、曹洞宗大本山永平寺の宮大工田中健一さん(左)＝永平寺町志比＝を招いて体験講座を開いた。同校の五年生四十八人が参加し、木組みなどの技法に触れた。



県が高浜小で講座 名工から児童学ぶ

日本の伝統建築の価値を見直す県のモデル事業。田中さんは建築の道五十九年の名工で、永平寺不老閣や島根県の出雲大社拜殿など日本建築の粋を集めた事業に携わってきた。

講座では、先端にいくにつれ湾曲した和くぎを取り出し「先が曲がっているので折れにくい」、木目に食い込んでも木が割れたりしません」と紹介。国内の有名寺院を例に挙げ、千年以上持ちこたえる強度を支える秘密を明かした。体験学習ではくぎなどを使わず、ケヤキを合わせた木組みを披露。児童たちは木と木をパズルのように組み合わせて外したりしながら、伝統技法を学んでいた。

田中さんから直接教わった米田知生君(左)は「一度合わせるとしっかり固定される。これを組み立てて丈夫な建物を造るんだ」と感心していた。(帯田祥尚)

平成25年10月11日付け
日刊県民福井

街路樹

○：高浜小5 ことに驚いていた。年生48人が10 〇：かんながけを体験日、伝統的な宮した織田曉宣君は「難し大工の技法を体 かった。木組みもなかなか頑丈な木材の上に乗っ 人はずいいなと思った」たり、かんながけなどを と話した。18日はおおい通して職人の技に触れ 町名田庄小、12月には小浜市遠敷小で体験講座が 開かれる。

○：県の「住教育」の

一環で、永平寺町の宮大工、田中健一さん(74)ら5人が指導した。伝統の木組みについて「木材同士を結合させているだけで、くぎは一切使っていないがとても頑丈」と説明。児童たちは乗っくもびくともしない

平成25年10月11日付け
福井新聞

伝統建築の奥深さに触れる

10月11日(金) 高浜小学校

子どもたちに住文化に関心を持って貰おうと、福井県が取り組んでいる「住教育」の一環として、宮大工を講師に招いた体験講座が開かれ、高浜小学校の5年生の児童48名が参加しました。児童たちは宮大工さんから、釘などを使わずケヤキを合わせた「木組み」や、大工道具の説明を受けたり、実際に槍カンナ掛けの体験などをしながら伝統文化に触れました。



広報たかほま
平成25年12月号



広報おおい
平成25年12月号

平成25年10月21日付け
建設工業新聞



匠 住教育体験講座「伝統建築文化に触れよう」
に伝統建築文化を学ぶ

県が取り組んでいる住教育の一環として、名田庄小学校5年生を対象に伝統建築文化に触れる体験講座が開かれました。

講座では、重要文化財の修復・再建を手掛けた宮大工の直井光男さんが日本の伝統建築のお話や大工道具の説明をし、その後実際に子どもたちが槍カンナ掛けなどを体験しました。建築のお仕事を学んだ子どもたちは「カンナ掛けは最初はうまくいかなかったけど、段々と思い通りに削れるようになった。これで建物を作るのは大変だったと思います」と話してくれました。
(10月18日 名田庄小学校)

**槍鉋による鉋がけなど実施
伝統建築文化体験講座**
—おおい—

福井県は18日、県内の小学生を対象とする住教育体験講座「伝統建築文化に触れよう」を、おおい町の名田庄小学校で開催した。同校の5年生の児童24人が参加し、墨壺や槍鉋などの伝統的な大工道具を用いた建築技術を実践した。写真。

この取り組みは、福井県が進める住教育の一環として、日本の伝統建築文化を子どもたちに伝えることを目的に開催しており、今回が7回目、講師は越前市在住で、奈良県にある薬師寺の各種復原工事に携わった宮大工の直井光男氏や、住文化専門家の国京亮二氏らが務めた。はじめに県の担当者

その後、それぞれの大工道具が紹介された後、直井氏による指導のもと、児童は木材への墨打ちや台鉋、槍鉋による鉋がけといった作業に取り組んだ。このうち槍鉋では、木材に対して刃を斜めに入れ、ゆっくと引くことで木屑が渦を巻きながら細長くまよまよといった。参加した児童の一人は「槍鉋の使い方は難しかったが、2回目にうまくできた。とても面白かった」と話した。



▲宮大工らに本物の大工道具の使い方など、日本の伝統建築文化を学ぶ児童たち（遠敷小学校・12月6日）

広報おばま
平成26年1月号

ふくい地域

昔の大工道具 挑戦

池田小 建築文化の体験講座

日本の伝統的な建築文化を子どもたちに伝える体験講座が八日、池田町稲荷の池田小学校で開かれた。五、六年生三十三人が、昔の大工道具の使い方などを教わった。

県が住教育の一環として県内の小学校で毎年度、複数回開催しており、本年度は一回目。越前市の宮大工、直井光男さん（直井建築代表）と住文化の専門家、国京克巳さん（福井工大非常勤講師）らが指導した。

児童たちは、木を加工し、くぎを使わずに接合す

「木組み」の構造を、分解したり組み立てたりして学んだ。

かんなどで木を削る作業にも挑戦。刃先がとがった初期の槍がなほ、平面的な台かんよりも使い方が難しく、「木が堅くて引っ張りにくい」と四苦八苦する児童もいたが、直井さんらに手を添えてもらい、こつをつかむと面白そうに削っていた。

（山本真喜夫）

直井光男さんに槍かんなどの使い方を教わる児童たち。池田町の池田小学校で。



平成26年10月9日付け
日刊県民福井



直井さん(左)の手ほどきを受けながら槍鉋で木材を削る児童=15日、美浜町弥美小

みんなで読もう

江呂時代前期まで使われていた大工道具「槍鉋」など日本の伝統的な建築文化に触れる体験講座が15日、美浜町弥美小で開かれた。児童たちは宮大工の手ほどきを受け、槍のような形

宮大工の技、知恵学ぶ

美浜・弥美小児童 槍鉋など体験

のかんなどで木を削り、昔のものづくりを肌で感じた。

本県にも多く残る貴重な建築文化を継承しようとして開いている。5、6年生50人が参加し、越前市の宮大工、直井光男さん(80)ら5人が指導した。

福井城址の御廊下橋などの復元に携わる設計士、国京克巳さん(60)は、坂井市には、墨を付けた糸を使って木材の表面に線を引く「墨壺」などの大工道具を紹介。児童たちは実際に線を引いて技と知恵を学んだ。

この後、ヒノキ材を槍鉋などで削る作業を体験した。直井さんが削ると薄くて長く何重にも巻かれた削りかすがで、児童から歓声が上がった。杉本虹君(5年)は「槍鉋はけっこう力が必要で、刃を斜めに削るのが難しかった」と話していた。

(斎藤正人)

平成26年10月16日付け
福井新聞

美浜で住教育体験講座

弥美小児童50人が槍カンナなど



福井県は15日、日本の伝統建築文化を子どもたちに伝えるため、美浜町河原市の美浜町立弥美小学校体育館で、体験講座「伝統建築文化に触れよう」を開催した。

県では優れた住環境を地域の住民が再び若狭町立三宅小学校でも順次開催の予定。

この日は弥美小5、6年の児童50人が参加。宮大工の直井光男氏、住文化専門家の国京克巳氏らが講師を務め、伝統建築や大工道具の説明を聞いたほか、木組み取り外し、槍カンナ掛け体験を通じて日本の伝統建築文化に触れた。写真。

なお、同講座は今月末から来月中旬にかけて、越前町立宮崎小学校、あわら市立金津小学校および若狭町立三宅小学校でも順次開催の予定。

平成26年10月17日付け
建設工業新聞

平成26年11月1日付け
福井新聞

伝統建築良さ知って
宮崎小宮大工ら招き体験講座
みんなて……読もう
児童らに日本の伝統的な建築文化に触れてもらう体験講座が30日、越前町宮崎小で開かれた。

児童らは江戸時代まで使われた槍鉋などを実際に工の技に親しんだ。伝統建築の良さを知り継承してもらおうと、県が2012年から県内の小学校で開いている。奈良市の薬師寺金堂、西塔の復元に参加した越前市の宮大工、直井光男さんや、住文化の専門家で福井工大非常勤講師の国京克巳さんら5



人が講師を務めた。国京さんは、墨と糸を使って木材に直線を引く「墨壺」を紹介。直井さんは長さ約50センチの槍鉋で木を削り、児童らもそれぞれの道具に挑戦した。墨壺の線が薄くなってしまったら、槍鉋が木に引っかかってうまく削

墨壺を使い直線を引く児童＝30日、越前町宮崎小

大工道具に児童が挑戦
若狭町・三宅小で講座
木材を使った伝統建築文化に触れる体験講座が19日、若狭町三宅小で開かれた。児童たちは、宮大工らから手ほどきを受け槍鉋などを体験した。県の住教育の一環。同校の6年生19人と、越前市の宮大工、直井光男さん(80)ら5人が参加した。槍鉋の体験では、ヒノキの板のかんがけに挑

戦。児童たちはうまく削れず苦戦しながらも、笑顔で伝統建築文化に触れていた。住文化専門家によると、ちよくなや墨壺といふ大工道具の説明や、くぎを使わずに木を結合する木組みの体験もあった。(前田佳寿人)

石川涼君は「槍鉋が思うように使えず難しかった。大工道具は初めて見た。よつなものはかりで面白かった。大工さんは道具を使いこなして、すごいなと思った」と話していた。(前田佳寿人)



宮大工の直井さん(右)の手ほどきを受け、槍鉋を体験する児童＝19日、若狭町三宅小

平成26年11月20日付け
福井新聞

平成26年11月20日付け
日刊県民福井

大工さんの技術を6年生19人が体験
若狭町・三宅小で講座
日本の伝統建築について学ぶ講座が19日、若狭町井ノ口の三宅小学校であった。6年生19人がいろんな継ぎ方で組まれた木組みを取り外したり、木材に印を付けたりする作業「墨付け」に挑戦したりして、建築現場を支える大工の技術力の高さを肌で感じた。地域の資源を生かした町づくり「若狭瓜割エコビレッジ構想」を推進する三宅地区の子どもたちに、日本の伝統建築について理解を深めてもらうと県が企画した。講師には、若越建築文化研究所の国京克巳代表に加え、宮大工や大工ら5人を招いた。国京さんはのこぎりやカンナなどの大工道具の使い方



児童らを前に大工道具の説明をする国京克巳代表者＝若狭町三宅小学校で

■住教育 宮大工による体験講座「伝統建築文化に触れよう」実績集

平成27年3月

[編集・発行] 福井県土木部建築住宅課
〒918-8580 福井県福井市大手3丁目17-1
TEL 0776-20-0505 (ダイヤルイン)

千年を繋ぐ